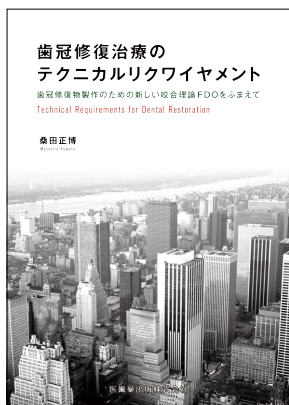


“世界のクワタ”による歯冠修復治療の「理論」と「実際」のすべて



歯冠修復治療のテクニカルリクワイヤメント

歯冠修復物製作のための新しい咬合理論 FDO をふまえて

桑田正博 著

A4判/256頁

定価 24,200円 (本体 22,000円 + 税 10%)

医歯薬出版 (2022年4月)

ウエマツ歯科医院 (東京都世田谷区)
ノブデンタルオフィス (東京都中央区)
池田歯科医院 (長野県諏訪市)
ヘルシーライフD.C (東京都港区)
評・土屋和子 (歯科衛生士)



高層ビルが立ち並ぶ1962年のニューヨークの街のモノクロ写真が表紙に使われ、メタリックな多色カラーを背景にタイトルが記されている。知識や技術だけではなく、著者の“生き様”がこの表紙から感じ取れる。

“ブレッド&バター”。序文の書き出しは、この言葉から始まる。今日では、CAD-CAMをはじめ、数々の技法が可能になった“白い歯”の原点である金属焼付ポーセレン (PFM) の開発秘話である。

CHAPTER1は歯冠修復物の外形基準であり、特にエマージェンスプロファイルやカントウアガイドラインに関しては、その外形がプラーク

リテンションファクターに関与し、歯周組織に及ぼす影響が大きいことから、歯科衛生士としても必要な知識である。

CHAPTER2では天然歯の形態的な役割について、個別の歯種における形態の特徴が解説され、修復物に口腔内での機能を考慮した形態を与える重要性が強調されており、ケアやメンテナンス時に欠かせない知識を学ぶことができる。

CHAPTER3~5は、支台歯形成とクラウンデザイン、骨格技法によるワックスアップテクニック、セラミックの築盛と形態修整について、歯科技工の要点が記載されており、修復物が完成される過程を知ること、患者さんへの情報提供もより専門的になる。

CHAPTER6, 7は咬合について、桑田氏が提唱するFunctionally Discluded Occlusion (FDO) の考え方やその修復治療の実際、天然歯の咬合調整の手法が解説される。ここでは、著者自身の口腔内を症例として提示し、2002年から2010年に及ぶ治療の全容が記載されており、たいへん興味深い。みずからの理論の実践として、インプラント治療や矯正治療などを身をもって経験されたことに尊敬の念を抱く。

CHAPTER8では、2021年に逝去した著者の歴史が語られ、その視点や思考、観察、人のかかわり、仕事や人生に対する真摯な姿勢が読み取れる。偉大なる歯科技工士・桑田正博先生……。これまであまりなじみのなかった歯科衛生士にこそ、この章から読み進めてほしい。

私にとって人生の師匠ともいえる著者を想うとき、本書にも書かれている「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える」との言葉が脳裏に浮かぶ。本書との逢いもまた然り。

ぜひ、多くの方々に出逢っていただきたい。